令和３年４月

# 戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）
# 科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム
# プロジェクト企画調査事後評価報告書

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム」
プログラム総括　　唐沢　かおり

## １．課題代表者

調 麻佐志（東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院　教授）

## ２．課題名

システム･デザインの手法による科学技術の社会インパクトの可視化と共創システムの基本設計

## ３．実施期間

令和２（2020）年９月１日 ～ 令和３（2021）年３月 31 日

## ４．事後評価結果

**<u>プロジェクト企画調査の目標達成状況</u>**

本企画調査は、科学技術と社会との関係の中で生まれる社会インパクトを対象とし、システム・デザインの手法を用いてロジックモデルの形で可視化することで、複雑で多様なステークホルダーの共創に有用な方法論開発を目指す、その基本設計と試行・評価を目標として実施されたものである。当プログラムにおけるプロジェクト企画調査として、社会インパクトの可視化・分析と ELSI 論点の導出など、本プログラムの基本的な目的と関わる点の明確化、研究対象とするテーマの粒度や選定の視点の設定、研究開発実施体制の拡充、などの点の強化を期待した。

企画調査の結果、本企画調査で対象とする技術領域について、基礎的検討として適切な粒度の具体的テーマを設定し、因果ループ図の適用、可視化、インタビューを通じた評価にいたる、一連の取り組みが着実に推進されている。また、システム・デザインの手法を応用・援用して社会的インパクトの可視化を目指す目的や、実践的な取り組みとしての意義は評価する。しかしながら、システム・デザインの手法を社会インパクトの評価に適用することの有効性の十分な検証や仮説構築は、未だ検討の途上にあると思われる。とくに、社会インパクトの可視化・分析と ELSI 論点の導出との関係性の整理や、提案する方法論の展開可能性の検討深化という点で、目標を達成できていない事項がある。研究開発構想の枠組み自体を拡大しながら、研究開発実施体制の拡充・強化も含め、具体的な設計が進むことを期待する。

以上

**（別紙）評価者一覧**

**〈プログラム総括〉**

唐沢 かおり　東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

**〈プログラムアドバイザー〉**

大屋 雄裕　慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥　防衛医科大学校 学校長

中川 裕志　理化学研究所 革新知能統合研究センター
社会における人工知能研究グループ チームリーダー

西川 信太郎　株式会社グローカリンク 取締役
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB プロデューサー

納富 信留　東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦　横浜国立大学 先端科学高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子　理化学研究所 理事／東北大学 名誉教授

水野 祐　シティライツ法律事務所 弁護士／慶応義塾大学 SFC 研究所 上席所員

山口 富子　国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授

（所属・役職はすべて 2021 年 3 月末時点）